

初冠（練習問題）

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、男、**A**初冠して、平城の京、春日の里<sup>に</sup>に<sup>し</sup>るよしして、狩りに往<sup>に</sup>に<sup>け</sup>り。その里に、いとなまめいたる女はらから住みけり。この男、垣間見てけり。思ほえず、古里に<sup>い</sup>とはしたなくてありければ、心地惑ひにけり。男の着たりける狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。その男、しのぶずりの狩衣をなむ着たりける。

I 春日野の若紫のすり衣しのぶの乱れ限り知られず

となむ追ひつきて言ひやりける。<sup>c</sup>ついでおもしろきことともや思ひけむ。

II みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめ<sup>に</sup>に<sup>し</sup>我ならなく<sup>に</sup>に<sup>し</sup>

といふ歌の心ばへなり。昔人は、かく<sup>o</sup>いちはやきみやびをなむしける。

問一 二重傍線部 a と d の「に」の文法的説明として適当なものを、それぞれ次から選べ。（3点×4）**知識**

ア 断定の助動詞の連用形    イ 格助詞    ウ 完了の助動詞の連用形

エ 接続助詞    オ ナ変動詞の連用形活用語尾

問二 本文中から完了の助動詞「つ」を探し、一文節で抜き出せ。（4点）**知識**

問三 傍線部 A の意味として最も適当なものを、次から選べ。（4点）**知識**

ア 初めての旅に出て    イ 初めての狩に出て    ウ 元服して    エ 仕事に就いて

問四 傍線部 B は、「ひどく不釣り合いな感じであったので」という意味であるが、何と何が不釣り合いであると言っているのか。

答えよ。

〈7点〉**読む**

問五 傍線部Cの解釈として最も適当なものを、次から選べ。(7点) **読む**

ア 男は、歌を姉に贈ったのにつづいて、妹にも贈るとおもしろいとも思ったのであろうか。「みちのくの…」の歌を、技巧を凝らして贈ったのである。

イ 男は、そのついでに、自分の狩衣の裾を切った切実な思いつきを我ながらおもしろいとも思ったのであろうか、ふたたび、「みちのくの…」の歌を、より趣深く贈りそえたのである。

ウ 男は、しのぶもじずりの狩衣を着ていてちようどいいとも思ったのであろうか、「みちのくの…」の歌の心に通じる歌を即興したのである。

エ 次に、女は、この男の歌をおもしろいとも思ったのであろうか、同じしのぶずりの言葉を詠みこんだ、心ばえのある歌を返したのである。

問六 本文中の和歌I・IIで使われている修辞法を、次からすべて選べ。(完答8点) **知識**

ア 枕詞   イ 序詞   ウ 縁語   エ 掛詞   オ 本歌取り   カ 体言止め   キ 比喩   ク 歌枕

問七 傍線部Dとは具体的にどういうことを指すか。最も適当なものを、次から選べ。(8点) **読む**

ア 美しい女性に自分の気持ちを伝えるためには、身につけているものに歌を書きつけて贈ることが一番であったということ。

イ 『古今和歌集』の歌を引用してでも、自分に教養のあることをアピールして美しい姉妹の気をひこうとしたこと。

ウ わざわざ自分の着ていた衣服を切っても、若々しく美しい姉妹を見て思い乱れたその気持ちを姉妹に伝えようとしたこと。

エ 旧都では流行していないが、風流な歌をわざわざ衣服に書きつけて贈るということが当時の都の流行であったということ。

オ せっかくな見つけた美しい姉妹を他の男性にとられまいと、すぐに風流な歌を贈って気をひこうとしたこと。

通ひ路の関守（練習問題）

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、男ありけり。東の五条<sup>a</sup>わたり<sup>b</sup>にいと忍びて行きけり。みそ<sup>c</sup>かなる所なれば、門よりも<sup>A</sup>え入<sup>d</sup>らで、童べの踏みあけ<sup>e</sup>たる築地の崩れより通ひけり。人。しげくもあらねど、たび重なりければ、あるじ聞きつけて、その通ひ路に夜ごとに人を据ゑて守らせければ、行けどもえあはで帰りけり。さて詠め<sup>f</sup>る。

人知れぬ<sup>g</sup>わが通ひ路の関守は宵々ごと<sup>h</sup>にうちも寝<sup>i</sup>ななむ

と詠めりければ、いといたう<sup>j</sup>心病みけり。あるじ許し<sup>k</sup>てけり。

二条の後に忍びて参りけるを、世の聞<sup>l</sup>こえありければ、兄人たちの守ら<sup>m</sup>せ給ひけるとぞ。

問一 本文中に出てくる次の語の読みを現代仮名遣いで答えよ。（2点×2）**知識**

- (1) 築地 (2) 兄人

問二 波線部1～5の助動詞の文法的意味と終止形を答えよ。（完答2点×5）**知識**

問三 二重傍線部a～dの意味を答えよ。ただし、活用語は終止形で答えること。（3点×4）**知識**

問四 傍線部A・Bを次の例にならって品詞分解し、現代語訳せよ。（完答6点×2）**知識**

例 あるじ聞きつけて、… あるじ（名詞）・聞きつけ（動詞）・て（助詞）、

問五 傍線部Cの理由として最も適当なものを、次から選べ。（4点）**読む**

- ア 男が通ってこなくなってしまったので、捨てられてしまったのだと考えたから。  
イ 贈られてきた歌を見て、二人に対してひどい仕打ちをしてしまったと気づいたから。  
ウ 男から贈られた歌を見て悲しんでいる女に対して、申し訳ないことをしたと思ったから。

エ 歌を見て男の切実な気持ちを知るとともに、自分も男に逢えないことがつらく思われたから。

問六 本文の内容に合致するものを次から選べ。(6点) **読む**

ア 男は五条に住む女に恋をしたが、逢うことはできずにいた。

イ 女の家は土塀の崩れた、人目につかない所にあるあばら屋だった。

ウ 男はいつもの通り路に見張り番が置かれたので、女に歌を贈った。

エ 男の歌を聞いて心を痛めた家の主は、男が通ってくることを許した。

問七 本文中の「男」のモデルとなった人物の名を漢字で答えよ。(2点) **知識**

初冠 解答例

問一 a イ b オ c ウ d エ (3点×4)

問二 見てけり (4点)

問三 ウ (4点)

問四 寂れた旧都と美しい姉妹 (7点)

問五 ウ (7点)

問六 イ・ウ・エ・キ・ク (完答8点)

問七 ウ (8点)

通ひ路の関守 解答例

問一 (1) ついじ (2) しようと (2点×2)

問二 1 完了・たり 2 完了・り 3 打消・ず 4 完了・つ 5 使役・す (完答2点×5)

問三 a あたり b 密かである (密かに通う) c 多い d 評判 (3点×4)

問四 A え (副詞)・入ら (動詞)・で (助詞)・／入ることができなくて、 B 寝 (動詞)・な (助動詞)・なむ (助詞)・寝て

しまつて欲しい (完答6点×2)

問五 エ (4点)

問六 ウ (6点)

問七 在原業平 (2点)

【現代語訳】初冠

昔、(ある)男が元服して奈良の都、春日の里に領地がある縁で鷹狩りに行った。その里にとても若々しく美しい姉妹が住んでいた。この男は(その姉妹を)垣間見てしまった。思いがけず、(この寂れた)旧都に(姉妹が)ひどく不釣り合いな(美しい)感じであったので、(男は)動揺してしまった。男が着ていた狩衣の裾を切って、(それに)歌を書いて贈る。その男は、しのぶずりの狩衣を着ていた。

春日野の若い紫草のように若々しく美しいあなた方を見て、私の心はこの紫草のしのぶずりの衣の乱れ模様のように、限りなく乱れております。

と、すぐに歌を詠んで贈った。(男は自分で)歌の贈り方が趣深いことと思っただのであろうか。

陸奥のしのぶもじずりの乱れ模様のように、(あなた以外の)誰かのせいで心が乱れ始めてしまった私ではないのに(私の心が乱れるのは、あなたのためです)。

という(、あの源融が詠んだすばらしい)和歌の趣向である。昔の人は、このように機転の利いた風流な振る舞いをしたということだ。

【現代語訳】通ひ路の関守

昔、男がいた。京の東の五条通りのあたりにたいそう人目を避けて通って行った。密かに通う所なので、門から入ることもできなくて、子供たちが踏み崩した土塀の崩れた所を通って行った。人目が多くもないが、(通うことが)度重なったので、その家の主人が聞きつけて、その通い路に毎夜番人を置いて監視させたので、(男は)通って行くけれども会うことができなくて帰った。そこで詠んだ(歌)。

人知れず通う、私の通い路の関守のような番人には、毎晩少しでも寝てしまつて欲しい。

と詠んだので、(相手の女性は)たいそうひどく心を痛めた。(そこで)主人は(男が通うことを)許してしまった。

二条の後のもとに人目を避けて参上していたのを、世間の評判が立ったので、(二条の後の)兄たちが守らせなかつたとかいふことだ。